

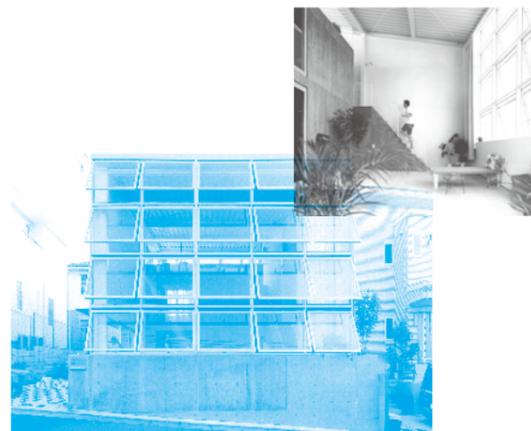
|主催| 一般社団法人 東京建築士会



TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS PRESENTS



RESIDENTIAL ARCHITECTURE PRIZE 2015



住宅建築賞 2015 入賞作品展



RESIDENTIAL ARCHITECTURE PRIZE 2015
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS PRESENTS

2015.7.3 fri-7.31 fri
[日曜・月曜・祝日休館]
10:00~18:00 金曜日19:00まで / 入場無料
AGC studio

住宅建築賞 入賞者

- 能作淳平 ■ 堀直樹
- 大野博史 ■ 安田朋子
- 武井誠 ■ 高橋一平
- 鍋島千恵 ■ 常山未央
- 能作文徳

2015年
7月3日(金) - 7月31日(金)

住宅建築賞

入賞レセプション /
オープニングパーティー

申込先着順 定員:100名 入場無料

7月3日(金)

- [入賞レセプション]
16:30~18:20 / AGC studio (2階)
- [オープニングパーティー]
18:30~20:00 / AGC studio (2階)

※入賞レセプションは審査委員による入賞作品講評、および入賞者とのディスカッションになります。

[住宅建築賞 審査委員]
委員長: 西沢立衛
委員: 乾久美子 / 小嶋一浩 / 妹島和世 / 藤本壮介

[協賛]
株式会社 建築資料研究社 日建学院
株式会社 総合資格

[協力]
旭硝子 株式会社

[会場構成]
工学院大学 木下庸子 研究室

[後援予定]
公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社

[主催][申し込みお問合せ先]
一般社団法人 東京建築士会
東京都中央区晴海 1-8-12 オフィスタワー Z 棟 4F
tel.03-3536-7711 fax.03-3536-7712
e-mail.jks@tokyokenchikushikai.or.jp
www.tokyokenchikushikai.or.jp

HELLO AGC studio



〒104-0031 東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館1・2階
tel.03-5524-5511 www.agcstudio.jp

住宅建築賞 入賞作品

2015年 | 一般社団法人 東京建築士会

●応募主旨 [委員長 西沢 立衛]

【新しい時代の住宅】

住宅は私たちの生活にとって、もっとも身近な空間の一つです。そこには、私たちが生きる上での価値観というのが表れます。例えば、建築家が寝室を設計するとき、どんな寝室がいいかを考えながら寝室を設計しますので、その結果できた寝室は、「こう寝るのはどうか」ということを、空間的に言うことになります。他にもそういうことはいっぱいあって、例えば入浴はどうか、庭はどうか、庭はどうか、私たちの考え方、価値観が空間的に示されます。そういうものの総体として、住宅というものはその全体で、「こう暮らすかどうか」ということを、空間的に言うこととなります。時代が変われば、機能性や利便性も変わり、快適性も変わります。価値観が変わってゆきます。いま住宅を設計したら、それはかつてとはなにか違う、新しい時代の萌芽のようなものを感じさせる住まいになるのではないのでしょうか。新しい時代の息吹を感じさせる建築は、新しい時代を生きる人々の価値観から出てくるのではないのでしょうか。なにが快適とか、何が要らないとか、何が美しいとか、そういういろんなことが渾然一体となって住まいとなり、生き方となって、新しい時代を切り開く新しい精神を世に示してゆくのではないのでしょうか。

最後に、今年(2015年)と来年(2016年)の住宅建築賞課題「新しい時代の住宅」は、去年(2014年)一昨年(2013年)の課題と同じものです。審査委員構成は去年一昨年とは違いますが、審査方針は変えずに審査に臨むものとなりました。

●応募要項

(1)上記の主旨にかなうもの / (2)一戸建住宅、集合住宅及び併用住宅等とする(大幅な増改築、公共の建築も含む) / (3)原則として作品は最近3年以内に竣工したもの / (4)雑誌等に発表したものでもよい / (5)建築物の所在地は東京圏とする / (6)応募の点数は自由とする / (7)審査委員の関与した作品は応募できない

●応募要件

応募資格	応募作品を設計した建築士 (法人組織の場合は設計担当した建築士)
	登録料 本会 正会員:無料(申込時に入会した方を含む) 他県 建築士会 正会員:1点につき5,000円 会員外:1点につき10,000円 (作品を郵送する場合、登録料は現金書留にてお送りください)

提出期限	2015年1月23日(金)
提出先	一般社団法人東京建築士会 住宅建築賞係 〒104-6204 中央区晴海1-8-12オフィスタワーZ棟4階 TEL 03-3536-7711
提出資料	申込書及び本会指定A2版台紙 図面及び完成写真数点(内・外観)、平面図、立面図、断面図、配置図、設計主旨(300字以内)等をA2版台紙一面(本会指定の用紙・原則として縦づかい、パネル化しない)におさめること。なお、写真の大きさ図面等の縮尺及びレイアウトは自由とする。プレゼンテーションの表現自体は、審査の対象としない。 〔申込書及び本会指定A2版台紙は本会事務局において頒布します。郵送希望の場合は、宅配便着払いにてお送りできます。その場合、①件名を住宅建築賞申込希望、②氏名、③送付先、④連絡先、⑤会員番号等を明記のうえ、E-mailまたはFAXにてご請求ください。なお、事務処理の迅速化を図るため、宅配便着払い承の旨お書き添えください。(E-mail:jks@tokyokenchikushikai.or.jp FAX:03-3536-7712)〕

●審査委員

委員長	西沢 立衛
委員	乾久美子 / 小嶋一浩 / 妹島和世 / 藤本壮介

●審査

- 第1次審査(書類審査)に通過したものは原則として現地審査する。
- 入賞発表 2015年4月中旬
 - 審査結果については、応募者に直接通知する
 - 応募者は審査結果について異議を申し立てることができない

表彰及び賞金	1	入賞者(5点以内)に対し賞状(盾)及び賞金を贈り、入賞者の中から特に優れたものには金賞を贈る。 <table><tr><td>住宅建築賞</td><td>70,000円</td><td>住宅建築賞金賞</td><td>150,000円</td></tr></table>	住宅建築賞	70,000円	住宅建築賞金賞	150,000円
	住宅建築賞	70,000円	住宅建築賞金賞	150,000円		
	2	建築主、施工者には入賞を記念する盾を贈呈する。				
3	表彰式:総会の席上(6月上旬予定)					

応募図面の取扱い	1	応募図面の公表及び出版の権利は主催者が保有する。
	2	入賞作品は本会ホームページ及び会報等に掲載する。また、入賞作品展(公開展示:7月開催)の予定がある。
	3	入賞作のうち、東京都内に建築されたものの中から1点を「関東甲信越建築士会ブロック会」の優良建築物表彰候補作品として、推薦することがある。
	4	応募作品は返却しない。

●審査結果 (2015年 住宅建築賞)

応募点数 86点 住宅建築賞入賞 5点

住宅建築賞 (受付順)	ハウス・イン・ニュータウン (神奈川県)	○設計者:能作淳平+大野博史(能作建築設計事務所/オーノJAPAN) ○建築主:古本直行 ○施工者:工藤工務店(建物構造:鉄骨造)
	構の郭 (茨城県)	○設計者:武井誠+鍋島千恵(TNA) ○建築主:滝徳宗 ○施工者:株式会社 関根工務店(建物構造:鉄骨造一部木造)
	岸辺の家 (埼玉県)	○設計者:堀直樹+安田朋子(堀直樹・安田朋子建築設計事務所) ○建築主:赤山照夫 ○施工者:株式会社 スリーエフ(建物構造:木造)
	Casa O (東京都)	○設計者:高橋一平(高橋一平建築事務所) ○建築主:匿名希望 ○施工者:月造(建物構造:木造)
不動前ハウス (東京都)	○設計者:常山未央+能作文徳(mnm/能作文徳建築設計事務所) ○建築主:林煥榮、逢坂千枝 ○施工者:有限会社 エヌ・エフ・クリエイション(建物構造:鉄骨造一部木造)	

●参考資料

1次審査結果 2015年2月18日(水)実施。応募作品86点より、1人5点~6点を投票(審査委員5名)

審査委員	作品番号						合計
西沢	10	25	46	64	86	—	5点
乾	10	13	30	40	82	85	6点
小嶋	10	13	14	25	72	85	6点
妹島	13	21	46	84	85	86	6点
藤本	10	25	40	66	71	82	6点

獲得票数	作品番号	合計
4票	10	1点
3票	13, 25, 85	3点
2票	40, 46, 82, 86	4点
1票	14, 21, 30, 64, 66, 71, 72, 84	8点

10 40 46 85 86 左記5点を1次審査通過とし、2次(現地)審査対象とした。2次(現地)審査は、4月5日(日)に実施した。



1次審査風景(上・下)

作品講評 総評 ▶西沢 立衛◀

今回の住宅建築賞のテーマは前年、前々年と同じく、「新しい時代の住宅」である。審査員は、今までの審査員チームは任期二年満期ということで、今回からメンバー交代となり、今年と来年のために新たに妹島和世氏、小嶋一浩氏、藤本壮介氏、乾久美子氏に審査員を依頼して、計5名で審査にのぞむこととなった。今年の応募総数は計86点であった。2月18日にポートフォリオ資料による1次審査があり、投票と議論を経て、計5作品を現地審査対象作品に特定し、一ヶ月半後の4月5日に5作品の現地審査を行った。現地審査当日はあいにくの雨となって、また北は高萩から南は藤沢まで、移動の範囲もかなり広く、早朝から夜まで一日かけた長い審査となったが、すべて予定通り審査を完了することができた。休日のさなか突然の来訪を快く受け入れてくださった建主・住まい手の皆様、現地説明して下さった設計者の方々には、この場で

お借りして、あらためて深く感謝を申し上げます。5作品はどれも力作で、審査員五人による議論はかなり白熱した。意見は大きく分かれたが、最終的には、5作品とも住宅建築賞に値するという結論となった。

「構の郭」は、豊かな地方都市に立つ大きな住宅で、若く経験豊かな建築家チームの実力を感じさせる作品である。建築としては開放的というよりはむしろ閉じ気味の構えだが、それでも地方都市の環境ののびやかさ、ゆったりとした魅力が、室内においても感じられた。1次審査で航空写真を見たときは、平屋平面のただごとでない大きさに驚き、周辺への影響がちょっと心配になったが、実際に現地を訪れたところ、存在として懸念していたほどの圧迫感を感じなかった。ただ室内は、グリッド状の構造形式の理由、その意義というものが、もうひとつわかりづらかった。「岸辺の家」は、僕個人としてはもっとも推した建築である。小さくコンパクトにまとめた家ながら、周辺から孤立しない動的感覺、周辺とのつながりがある建築で、関係性がそのまま形になるようなダイナミズムを感じる。一見、

感覚的かつ即興的な建築に見えなくもないが、実際に訪れると、論理的・形式的なアプローチが創造のエンジンの一つになっていると感じる。もちろんカオス的な部分があるのも事実で、物事が崩壊してゆきかねないカオスと、論理的・形式的なものを求める精神の、両者のせめぎ合いが、この建築の生命になっているように思われた。建築的納まりや寸法の問題について、審査ではいろいろな指摘が出て、その多くは妥当なものと思われたが、僕としては、この建築がもつ瑞々しいモダニズム精神、建築に賭ける凝縮の意志という部分に共感した。「不動前ハウス」はリノベーションのプロジェクトで、古い建物を改造して、若い人々が集まって住む、いわゆるシェアハウスの計画である。古い建物を活用することで逆に現代的な生活のありようや、今の時代の感覚というものが表れた。住まい手の方々がさらに、自然体で時をすごしているのも印象的だった。建築的インパクトがもう少し欲しかったような気もするが、それがあまりないのがある種の優しさ・現代性でもあるのかもしれない。単にシェアハウスというよりも、若者同士の共同体を超えて、地

域を巻き込むより大きな共同体を予感させるものとなれば、さらに魅力的なものになると感じた。「Casa O」は、木密地域の奥のまた奥にひっそりと立つ小住宅である。これもリノベーションのプロジェクトで、外側を維持したまま中身がまったく違う世界になっている。全体構成、ディテール、すべてが精密に作り込まれている。その隠された立地、住まい手の生活と建築の調和、建築の外と中のコントラストなど、演出的といえいいだろうか、マスタープラン的な視点があることも、印象的だった。そういう世界全体の精密な作られ方、その完成度の高さは、今回の全応募作の中で飛び抜けていると感じた。「ハウス・イン・ニュータウン」は、郊外の新興分譲住宅地に立てられた若い家族のための住宅である。光の明るさや、リラックスして住まう風景、設計の素直さといったことに好感を持った。他方で、寸法的に疑問を感じるころがいくつかあった。また、雰囲気としてモダン風なスタイルを感じさせる建築だが、雰囲気が終わっている面もあった。入れ子構造という基本モデルを建築にしてゆく濃密なディテールが必要だったのではないだろうか。

作品講評

2015年 住宅建築賞 作品講評

作品 **ハウス・イン・ニュータウン**

設計者 能作淳平 + 大野博史
(能作建築設計事務所/オーノJAPAN)

[講評者]

乾 久美子

この住宅を特徴づけるのは開放性である。東側に設けられた庭には門扉もなく、いつでも人が立ち寄れるような気軽さがあふれている。庭から一歩室内にはいると、大きな土間空間が待ち構えている。道、庭、土間が連続的につながる様子には環境に対する大きな信頼が感じられ、防衛的になりがちなニュータウンの町並みに、明るさのようなものを付加していた。夏にでもなれば、庭に子供のためのプールでも置かれて近所の人気スポットになりそうだ。こうした開放性はプランニングの問題としてだけでなく、ボックスインボックスという形式によって担保された将来的な可変性にもかかわっている。工場のようにあっけらかんとしたつくりの鉄骨造の箱に挿入された木の箱は将来的にどう変化してもよいと言う。木の箱をもうすこし簡便なつくりとしたほうが説得力はあったかと思われるが、可変性を構法的に洗練させるのではなく(それは大抵閉鎖系のシステムになる)、日曜大工でも達成できそうな気軽な仕様とすることに、建築と住まい手の有機的な関係の復権を見るような気がした。



作品 **構の郭**

設計者 武井誠 + 鍋島千恵 (TNA)

[講評者]

小嶋 一浩

1000平米を超える敷地全体に、まず4×5拵の7mグリッドの網をかける。鉄骨の柱と木製の地面から浮いた「郭(くるわ)」と作者が呼ぶ壁(梁)で、グリッドが可視化される。この「構え」によって敷地全体が建築的に領域化された上で、屋根とガラスによって室内が獲得されるという図式だから、視覚的には外部と内部が同じシステムに乗っておおらかにつながって現れる。「郭」の上端は均一であるのに対して、下端は微妙に高さを変えて拡がりに変化を与える。一番外側でも下端は地面に接することなく、周囲との関係を完全には切断していない。北側の樹園に向けては下端が高く大きく開かれて周辺環境へと連なっていて大変気持ちがいい。一方で幼稚園の通園路側や、隣家が近接する正面側は、ギリギリまで下端が降りてくる。そのレベル設定のチューニングに細心の注意が払われている。細部までミニマルにノイズが生じないように設計されていることも、ここまで述べてきたような透明性による拡がり感を高めることに奉仕している。敷地内にいる時に感じられるこうした空間の質が敷地の外からも感じられれば、というのは贅沢だろうか。



作品 **岸辺の家**

設計者 堀直樹 + 安田朋子 (堀直樹・安田朋子建築設計事務所)

[講評者]

妹島 和世

建物全体は平均的なサイズで、内部にも大きな空間があるわけではないのに、おおらかさを感じさせる建物でした。敷地は、都市でも田舎でもない中間的な場所で、自然がありながら、敷地のすぐ隣を二方向に高架の道路が走っている、捉えどころのないところでもあります。そういう状況に建物に対応しながら、たっています。まわりの環境にいい具合につながり、いい具合に離れていると感じました。それはそのまま、内部空間にも持ち込まれ、そして、これが気持ちの良い住宅でありながら、住宅から離れることもできるような設計につながっています。その設計態度に感銘を受けました。それほど大きくない内部に強引にうまい具合に中庭が作られていることに驚かされ、ぐるぐる、平面的に、立体的に、いろいろな空間を楽しみました。建物の角で波板を切らずに巻いたり、いくつかのところで、チャレンジであるけどこれでいいのかというディテールがあり、審査員の中でも話し合われました。それがピシッと収まるのがいいのか、今みたいな感じが失われてしまうのか。私個人としては、今後の期待も込めて金賞に値すると思いました。



作品 **Casa O**

設計者 高橋一平 (高橋一平建築事務所)

[講評者]

藤本 壮介

足を踏み入れて、おおーとなった。良いなあ、という圧倒的な感覚がまずは湧き上がって、そのあと、どうして良いのだろうか?という思考が始まったが、なかなか思考が追いつかない住宅である。路地の奥の奥に隠れるように建つ立地から始まって、さまざまな素材や色がちりばめられた空間は、うっかりすると、うまく作られたリノベーション、で終わらせてしまいそうなくらいに全てがしっくりと収まっているが、それは意図の小ささというよりも、むしろ設計者の力量を表しているに違いない。僕が思うに、この住宅は、人間が住む住環境というものを、建築にまつわる、あるいは建築の枠を超えた、あらゆるものを使って再構築しようという試みなのではないだろうか。既存建物の骨組みはもちろん、立地の奇妙さやたまたま立っている隣家たち、日射しの角度やいろいろな素材、家具、壁、床、その小口、住み手のキャラクター、そのほかもろもろの全てを総動員して、この住環境が作られている。その野心を隠すかのように、すべてがさりげなく作られているが、もしかするとこの家は、とてもチャレンジングな建築の再定義の最初の試みになるのではないかと、などと想像が膨らんだ。



作品 **不動前ハウス**

設計者 常山未央 + 能作文徳 (mnm/能作文徳建築設計事務所)

[講評者]

西沢 立衛

この住宅の魅力としてまず思うのは立地の素晴らしさで、大きなトラックやバスが行き交う大通りから一歩入った数mのところの裏路地に面して立つ。都会の喧噪と静寂の両方を感じるロケーションである。建物の前の大きな樅とキンモクセイが路地に飛び出していて、それも路地の魅力となっている。二階の個室は小さく簡素だが、一階の公共空間がいつでも使えるいわばみんなのリビングのようなものとなっていて、ホテルとかアパートとかといった既存の都市滞在施設にはない魅力を作り出している。路地の魅力でもある既存建築の古さを維持しつつ、新しい機能に必要な改造もして、古い建築物に新しい人々が新しい形で住むという現代的な生活像に相応しい器を作り出した。近年注目されているシェアハウスの一例といえるが、シェアハウスの枠組みを超えて、地域とのつながりや、路地のありようをまるごと変えるような開放感、創造性といったものが、今後生み出されていくことを期待する。



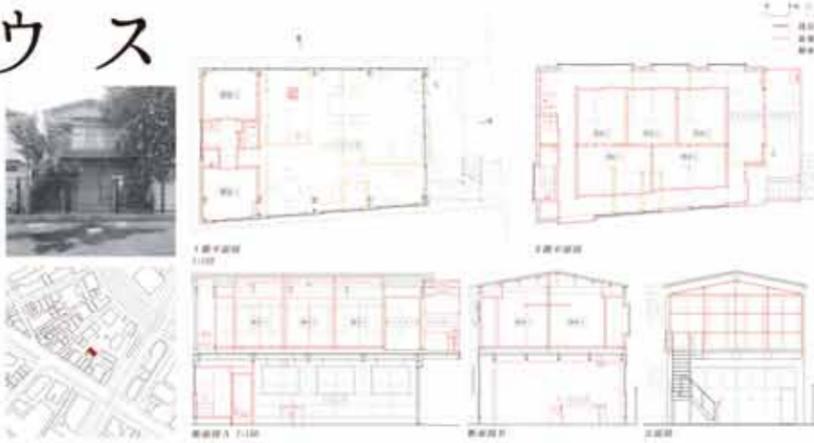
不動産ハウス

不動産、目黒川からほど近い第37年の経緯で住宅の改修である。30代前半の屋主は、寮生活のサンルームマンションを脱出し、現在の東京でも友人を招いたり、仕事ができるスペースを住まいの中に持つべくこの建物を購入した。そこで、7人が共に住まい、人や地域に開けた大きなリビングを持ち家として計画した。

1階は既存の鉄骨の架構を活かし、道路に開けた大きなリビングとした。2階へとつなぐ外部階段とバルコニーにはラントをかけ、住人のための小さな庭場所とし、外にはぼんやりと人の活動が感じられるテラスとした。2階は外部にでるも縁側のような廊下を配し、各居室へのアクセスと採光を確保した。

この計画では血縁関係のない7人が、日常的に交わるチャンス、なるべくたくさん与えることができる空間を目指した。

所在地 東京都目黒区
 建築年 2013年
 敷地面積 105.34㎡ (既存) 構造 1階鉄骨造 (既存)
 建築面積 77.77㎡ (既存) 2階木造 (既存)
 延床面積 146.74㎡ (既存) 工期 2013年6月~9月 7, 完成時 1:000



中層ビルに囲まれた路地に建つ、内部の活動を映し出すラントが建物の顔となる。



大きなリビングでのヨガ教室。鉄扉を全開にし路地と前庭を取り込む。



1階と2階をつなぐバルコニー。単管で組んだラントで囲われ住人の居場所となる。



既存の開口部を活かした廊下。住人同士のひと時のコミュニケーションを生む。



既存の桁の位置や小部屋の高さを活かした寝室。物置や寝床となるロフトを有す。



大きなリビングをカーテンで仕切る。同時にさまざまな活動が行える。



住宅建築賞受賞者プロフィール

●ハウス・イン・ニュータウン



能作 淳平

Junpei Nousaku

1983年：富山県生まれ
 2006年：武蔵工業大学(現・東京都市大学)卒業
 2006~2010年：長谷川豪建築設計事務所勤務
 2010年：能作淳平建築設計事務所設立



大野 博史

Hirofumi Ono

1974年：大分県生まれ
 1997年：日本大学理工学部卒業
 1998年：ユーゴスラビアENERGOPROJEKT 海外研修
 2000年：同大学大学院修士課程修了
 2000~2004年：池田昌弘建築研究所
 2005年：オーノJAPAN 設立
 2011年：第6回日本構造デザイン賞受賞
 現在、京都造形大学、日本大学、日本女子大学非常勤講師

●構の郭



武井 誠

Makoto Takei

1974年：東京都生まれ
 1997年：東海大学工学部建築学科卒業
 1997~1999年：東京工業大学塚本由晴研究室研究生+アトリエ・ワン
 1999~2004年：手塚建築研究所
 2004年：T N A 設立、同代表



鍋島 千恵

Chie Nabeshima

1975年：神奈川県生まれ
 1998年：日本大学生産工学部建築工学科卒業
 1998~2005年：手塚建築研究所
 2004年：T N A 設立、同代表

●岸辺の家



堀 直樹

Naoki Hori

1971年：岐阜県生まれ
 1994年：日本工業大学建築学科卒業
 1995年：東京理科大学小嶋一浩研究室研究生
 1996~2002年：妹島和世建築設計事務所
 2003年：堀直樹+安田朋子建築設計事務所設立



安田 朋子

Tomoko Yasuda

1972年：富山県生まれ
 1995年：横浜国立大学建設学科建築学コース卒業
 1997年：横浜国立大学大学院工学研究科修士修了
 1997~1998年：山本理頭設計工場
 2003年：堀直樹+安田朋子建築設計事務所設立
 現在、中央工学校非常勤講師

●Casa O



高橋 一平

Ippei Takahashi

1977年：東京都生まれ
 2000年：東北大学卒業
 2002年：横浜国立大学大学院修了
 2002~2009年：西沢立衛建築設計事務所
 2009年：高橋一平建築事務所設立
 現在、横浜国立大学助教

●不動産ハウス



常山 未央

Mio Tsuneyama

1983年：神奈川県生まれ
 2005年：東京理科大学工学部第二部卒業
 2005~2006年：Bonhôte Zapata Architectes (ジュネーヴ、スイス)
 2008年：スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (EPFL) 修士課程修了
 2008~2012年：HHF Architects (バーゼル、スイス)
 2012年：mnm 設立
 現在、東京理科大学工学部第二部助教、武蔵野美術大学非常勤講師



能作 文徳

Fuminori Nousaku

1982年：富山県生まれ
 2005年：東京工業大学工学部建築学科卒業
 2007年：東京工業大学大学院修士課程修了
 2010年：能作文徳建築設計事務所設立
 2012年：東京工業大学大学院博士課程修了
 現在、東京工業大学大学院助教